第十五回

青葉乃会

能

善知鳥

柴田稔

狂言

狐塚　野村万蔵

仕舞

楊貴妃　観世銕之丞

国栖　観世淳夫

平成27年

11月29日(日)

■ 於　喜多六平太記念能楽堂

■ 午後2時開演（午後1時半開場）

■ 主催　青葉乃会　柴田稔

■ チケット料金（全席指定）

正面　6,000円　　脇正面 5,000円

中正面 4,500円　　2階　3,000円

学生　2,000円

■ チケットのお申し込み・お問い合わせ

銕仙会（※平日午前10時～午後5時）

tel.03-3401-2285　fax.03-3401-2313

メール　info@tessen.org

ホームページ　http://www.tessen.org

柴田稔ブログ　http://aobanokai.exblog.jp

第十五回

青葉乃会

平成27年11月29日(日)午後2時開演

◎解説　増田 正造（30分）

仕舞

楊貴妃（ようきひ）

観世銕之丞

国栖（くず）

観世　淳夫

地謡　山本　順之
浅見　慈一
長山　桂三
鵜澤　光

狂言

狐塚（きつねづか）

シテ　太郎冠者　野村　万蔵
アド　主　能村　晶人
小アド　次郎冠者　河野　佑紀

能

善知鳥（うとう）

シテ　尉・漁師　柴田　稔
ワキ　旅僧　大日方　寛
ツレ　漁師の妻　谷本　健吾
子方　漁師の子　谷本悠太朗
アイ　所の者　野村虎之助

笛　藤田　貴寛
大鼓　大倉慶乃助
小鼓　田邊　恭資

地謡　観世銕之丞
浅井　文義
西村　高夫
岡田　麗史
浅見　慈一
長山　桂三
安藤　貴康
観世　淳夫

後見　清水　寛二
鵜沢　久

――終演予定　4時40分

演者紹介

柴田稔（しばたみのる）

観世流シテ方　1957年生まれ。大学卒業後、故八世観世銕之亟（人間国宝）及び故観世榮夫に師事。「石橋」、「道成寺」、「安宅」等を披く。2011年新作能「調律師―ショパンの能」地頭。欧米海外公演に多数参加。銕仙会所属、青葉乃会主催、重要無形文化財総合指定保持者。

―狂言「狐塚」

稲は稔りの秋である。主人は稲を喰う群鳥を追うために、鳴子をわたして狐塚の田へ太郎冠者を遣わした。太郎冠者は狐塚はその名のとおり、狐が出て人をだますと信じて不安を抱えて出向く。太郎冠者は鳴子鳴らし鳥を追う。そこに次郎冠者が見舞いに来ると、狐が化けたと思い込み縛り上げ、そこに後できた主人も縛り松葉をいぶして正体を現そう責め…。狐が信じられていた時代の思い込みの可笑しさに加え、稔りの秋の収穫時の情趣が色濃く表現された狂言。

―能「善知鳥」

旅の僧が陸奥外の浜へ行脚する途中、越中富山の立山の霊場に立ち寄り、この地に籠もり修業をする。この世の地獄といわれた有様を見た僧は下山する。僧は麓で青森の外の浜の猟師であった老人に呼び止められ、外の浜に残した妻子に蓑笠を手向けるようにと頼まれる。老人は片袖を証拠にと引きちぎって僧に預け、泣く泣く立ち去る。

〈中入〉

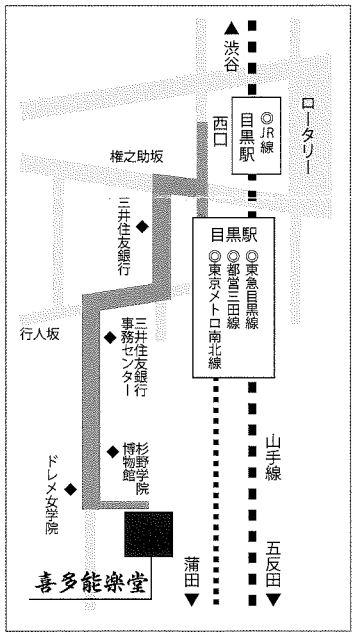
僧が外の浜に着き、猟師の家を訪れる。妻に片袖を見せるとそれは夫の衣。妻は涙ながらに蓑笠を手向け弔う。猟師の亡魂が妻子の前に現れた。母子は泣くばかりで、猟師も妻子の姿が見えない。善知鳥の親鳥の鳴き真似をして子鳥を騙し捕えた殺生の罪咎であろうか。善知鳥の姿を見ると、猟の興奮が蘇ってきた。思わず鳥を追う。子鳥を殺された親鳥は空から血の涙を流す。手向けられた笠で身を隠すが、善知鳥は化鳥となり鉄の嘴、銅の爪で猟師を責めたてる。この苦を救って欲しいと僧に願い、猟師は闇の底に消え失せた。

この能の善知鳥を捕らえる様を再現する特殊な「追打ちのカケリ」は、人間の奥底に潜む狩猟本能という残酷な本性が見事に表現されている。

写真表　八世観世銕之亟　撮影　三宅晟介
裏　八世観世銕之亟　撮影　浜口昭幸
揮毫　観世榮夫

会場

喜多六平太記念能楽堂
〒141-0021 東京都品川区上大崎 4-6-9
tel. 03-3491-8813



●アクセス
JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分
目黒駅西口よりさくら情報システム裏手のドレメ通りを直進
杉野学園体育館手前を左に入る